

# ある取り調べ

お願いですから、

私を死刑にしてください。

脚本 中西良太

村橋明郎 監督作品

うっとうしい雨が降り続くある日、

妻と息子を殺害した容疑で連行されて来た男の、それが最初の言葉だった。

男は自分が殺した妻子のもとへすぐにでも行かせてくれと必死に懇願する。

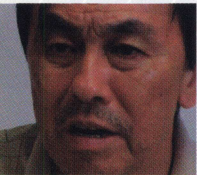
そんな男を取り調べることになったベテラン刑事。

彼もまた鬱病の妻を抱え、家庭崩壊の危機に直面していた。

立場は正反対だが、追い詰められている事では同じだった。

そんな二人が葛藤しつつ、狭い取調室の中で行き詰まるような時間が流れていく。

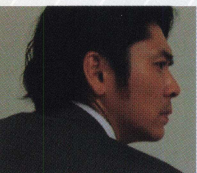
そして明らかになってくる事件の真相とは・・・



佐藤 B 作



中西 良太



斉藤 陽一郎





# ある取り調べ

取調室の中だけで繰り広げられる密室劇

どんなにつらい人生でも

生きていかなきゃ...

取調室



出演 佐藤 良作  
中西 良太  
斉藤 陽一郎  
西歩美、村田一晃、大迫右典、中田浄

製作 村橋明郎  
脚本 中西良太  
撮影 富田伸二、高橋正信、藤田朋則  
照明 大町昌路  
録音 関根光晶、中山寿範  
美術 山下修侍、中村敬介  
衣裳 高橋英治  
メイク 花村枝美  
制作助手 村橋菜保子  
編集 吉澤朋輝  
音楽 田尻光隆  
監督 村橋明郎

(2015年/日本/カラー/90分)

## 制作ノート

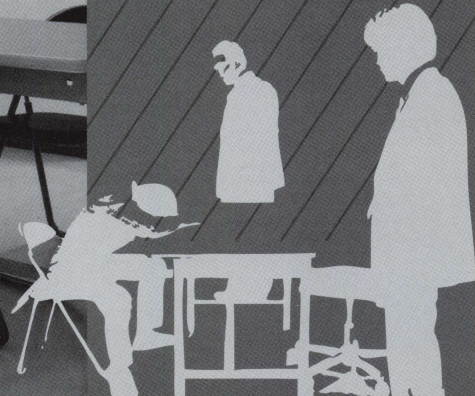
シナリオを最初に読ませてもらった時は、なんだか暗い話だなというくらいの印象しがなく、中西さんには感想も返さず、まるでなかったかのように時間が過ぎていた。そして、何年か過ぎたある日、何気なく手に取り読み返してみた。

あれ、いけるんじゃないの?! 何かが閃いた。

この時はまだちゃんと映画になるのかは確信が持てなかったが、中西さんと脚本を何度も直した。やがてお互いに行き詰まり、企画自体を諦めようと思ったこともあったが、最後の手段のように、回想シーンを全部カットした脚本にしてみた。「これならやれる」やっとな確信に近いものが見えて来たのは、最初に中西さんに「映画化を考えたい」と伝えてから半年以上も過ぎていた。そのシナリオを佐藤B作さんに読んでもらい、すぐに「やりたい」という返事もらったところから一気に映画化が加速して行った。撮影の富田伸二と美術の山下修侍は、次の作品はこの二人だと決めていたので、最初に声をかけた。極めて低予算の自主制作だが、二人とも快く引き受けてくれて、いろんなアイデアを出してくれた。撮影シーンは雨の実景を除くと、警察の廊下と取調室のみ、カメラを2台にして効率よくやれば三日で撮れるんじゃないかと考えていたのだが、このスタッフとキャストに三日間は必要なかった。都内の貸しスタジオを三日押さえ四日目を予備に考えていたが、撮影は二日間で終わってしまった。決して手を抜いたり、無謀なことをやったわけではない。映画が好きで、いい映画を創りたいというつもを考えている働き者たちが集まってくれたからだと思っている。ここ数年で映画のシステムが大きく変わって来た。だが、人間を描くのが映画だという気持ちは変わらない。家族に迷惑をかけながら「撮りたいものが撮れない」と嘆く前に、行動を起こす勇気とパワーが大事なのだと自分自身が教わった作品になった。

後は観ていただいた観客のみなさんが、この映画を育ててくれることを期待して・・・。

監督 村橋明郎



6月13日(土)～6月26日(金)モーニングショー!!  
連日10:30～

特別鑑賞券発売中!! 1,000円(税込) ※当日:一般1,500円の処

※期間中、初日舞台挨拶、他イベントを予定(詳細は劇場まで)

新宿駅東南口階段下 甲州街道沿ドコモショップ左入ル

新宿 K's cinema

03(3352)2471 www.ks-cinema.com

各回入替・整理券制

